

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、ホームと地域の関係性を重視した理念を、更に掘り下げて話し合い、実践につなげている。 ・具体的なケアについては、職員全体で話し合い、考え方の統一を図っている。	「福祉と医療の関わりを重視し、家庭的で尊厳ある生活環境の中で、心身の力を生かし、安らぎと喜びのある場として、利用者とその家族の幸せを追求する」というホーム理念を職員一人ひとりが理解しており、その上で自分の持ち味を発揮して利用者と接している。ケア会議では利用者の意向や理念に沿ってケアが実践されているかを全員で話し合っている。家族や来訪者にもわかりやすいようホーム内に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事に極力参加し、地域の人達とふれあいがきるようにしている。 ・地域の保育園児、小学校児童との交流会を行っている。 ・地域のボランティアの方々と月1回は、交流を図っている。(傾聴・音楽・紙芝居・腹話術等)	自治会に加入し回覧版も廻っている。周囲の草取りを利用者と一緒に行ったり、散歩で近所の人と顔なじみになっており自然な交流ができています。地域の公民館行事には利用者の作品を出品し生きがいとなっている。中学生の職場体験の受け入れや保育園児との交流があり利用者も楽しみにしている。毎月ギター演奏のボランティアと一緒に歌を歌うことが利用者の楽しみの一つとなっており、日課でも懐かしい歌を歌っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・中学生の職業体験学習の受け入れが決定しています。 ・地域の公民館行事等に参加し、利用者様の作品を展示したりして理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・現在2か月に1度開催し、検討事項や勘案事項及び経過報告をし、1つ1つ積み上げてより良い施設となるよう努力し、サービスの向上を図っている。また、参考意見を記録し今後の運営に活かしている。	年6回実施し、家族、区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、理事長、管理者が出席し、事業内容や運営について報告し検討していただいている。会議で区長を通じて長寿会や区の役員にホームに足を運んでいただくよう声をかけたり、保育園に関わる民生委員の方からの助言で、職員アンケートや職員のローテーション等をホーム運営に取り入れサービス向上に活かしたこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市担当者と、運営推進会議で利用者様の暮らしぶりやニーズの具体を伝え、連携を深めている。 ・問題点については、適宜市側担当者に相談している。	市主催の会議がある場合には出席し情報収集している。また日頃から利用者のことやグループホーム見学者等に関する連携を取っている。介護認定更新申請は家族の依頼により代行し、調査日には職員が利用者の生活の様子を伝えている。利用者の転倒事故の時には報告書を市に提出しアドバイスをいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・「禁止の対象となる具体的な行為」を全体会議で、全員に徹底している。 ・個々の利用者様の特性を職員全員が理解および共有し事故の無い暮らしができるよう取り組んでいる。また、利用者様の根本的な不安や混乱等の要因を取り除くようにしている。	拘束をしない介護方針である旨を契約書、重要事項説明書に記載し利用者、家族に契約時に伝えている。職員は研修を繰り返し拘束に当たる行為について正しく理解し、利用者の意向に沿った自由なケアに取り組んでいる。現在外出傾向の利用者はいないが、利用者の希望があれば職員が一緒について気分転換している。近所の方とも顔なじみになっているので方が一の離設の際にも協力が得られるようになっており心強い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ミーティングを随時実施し、虐待防止についての心構えを指導している。 ・管理者は、職員の疲労やストレスの把握に都度努めている。 ・入浴時等に利用者様の身体に異常がないかチェックしている。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修の参加や勉強会を開催し、機会あるごとに職員の啓蒙・理解を深めて、活用できるよう支援している。 ・現在、成年後見制度を利用している利用者様が居る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には契約書の内容および重要事項説明を丁寧に説明している。 ・ホームのケアに関する考え方や取組みおよび退居を含めた説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族には、来所時や家族会等で常に問いかけ、なんでも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意し、意見を聞いている。また、出された意見や要望等は、ミーティングで話し合い、反映させている。	利用者のほとんどが言葉で要望等を出せる。日頃の利用者との会話の中から意見や要望を汲み取り、食べたいものなどを聞いて献立作成時に活かし要望に沿うようにしている。家族の来訪は3日に1度、1カ月に1度など定期的で、家族の来訪の際には必ず利用者の様子を伝え、意見・要望を聞くようにしている。家族会は毎年8月の納涼祭に合わせて実施し、その際にも声がけし聞くようにしている。毎月の「かぐらばしだより」と利用者の近況報告の手紙を家族に郵送し喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者は職員の意見、要望を聞くとともに、ミーティングで話し合いをして決めている。 ・理事長、管理者を含め全体会議を開催し、意見および提案等を聞く機会を設け反映させている。	2カ月に1回の全体会議、月に1回のフロア会議、月3回のケア会議などが行われ、日々の申し送りも加え常に職員間のコミュニケーションをとっている。今年度も職員アンケートを実施し、要望や提案を検討し運営に反映させている。キャリアパスモデルを利用して個々の目標設定や研修の受講などを経て確実にスキルアップにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の外部研修参加や資格取得に向けた支援をしている。 ・職員の体調管理に気を配り、休憩時間の取得等モチベーション向上に努めている。 ・職員同士の人間関係を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修等に、極力多くの職員が参加して能力向上を図るようにしている。 また、研修の報告は、全体会議やフロア会議で発表し研修内容を共有化している。 ・年間研修計画を立て職員の啓蒙を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・知人の同業者と交流する機会を取り入れ、サービスと質の向上を図っている。 ・他施設の見学し、運営の状況を学んでいる。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・センター方式による基本情報や今までの生活状況の記録等をご家族から提出して頂き、把握している。 ・ご本人が施設の生活に慣れるよう親身にお世話をし、信頼関係の樹立に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・今までの生活状況の記録より、ご家族の意見や考え方を聞き、信頼関係の樹立を図るよう努めている。また、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築き必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努め、共に支えあえる関係づくりを築いている。(お互いが協働できるような和やかな生活をできるよう声掛けしている。)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人とご家族との絆を深めるよう、施設での生活の写真や出来事を都度お知らせして理解を深めている。(かぐらばしだよりを毎月発行し、担当者からの一言コメントも添え、お知らせしている。) ・来訪時は、ご本人とご家族の潤滑油となるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・一人一人の生活環境を把握し、支援している。 ・本人との会話の中で、馴染みの人の話や、想いでの場所等を聞いてあげている。 ・要望があれば、その場所へドライブして見学している。	以前していた趣味の会の友人や教え子、若い頃の同僚など家族以外の来訪も度々あり、職員は関係が継続できるよう支援している。馴染みの美容院に職員の送迎で通っている利用者もいる。正月やお盆には外泊したり、家族がホームで夕食を食べながら一緒に過ごすこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご利用者同士の関係が、円滑になるようレクレーション等を行い親睦を深めている。職員が調整役になり支援している。 ・ボランティアの方が、定期的に来所され全員でお楽しみ会を行い利用者同士の関わり合いを支援している。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・毎日の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情からその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。また、意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得る様にしている。	ほとんどの利用者が職員に思いを伝えることができている。特に担当職員はできるだけ変えない体制をとっている。信頼関係ができている。レクリエーションや製作活動など、それぞれの利用者の意向に沿って行い、参加したくない内容でつらい思いをしないよう配慮している。利用者が好きなことを楽しむ時間を大切にしており、ジグソーパズル、塗り絵、折り紙、ラジオ体操、麻雀、ナンバークロスパズルなど一人ひとりの生きがいとなるよう支援している。利用者の状況や思いは連絡帳に記載し職員間で情報共有ができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人の今までの生活記録を知ることで、その人への理解を深めている。本人はじめ、ご家族や地域の人の力を借りながら継続的に行っている。職員との会話の中で極力話題とするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者様一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、日頃の行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。 ・シフト交代時には、その日の過ごし方や本人の状態を説明し引き継ぎをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人やご家族に日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。 ・アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 ・利用者様主体の暮らしを反映させるようにしている。	本人や家族の意向を取り入れ、ケア会議で職員全員で充分話し合い、担当職員と計画作成担当者が一緒にケアプラン原案を作成している。その後、本人や家族に説明し同意もいただいている。目標が記載されたケアプラン実行表が個人記録につづられ、毎日その日の職員がモニタリングするので利用者それぞれのプランを職員全員が把握しケアに当たっている。評価は3か月毎に担当職員が行わないケア会議で見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別にファイルし、食事、排泄、入浴等身体的状況および日々の暮らしの状況を記録している。 ・職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。 ・個別記録を基に介護計画を見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人、ご家族の要望等を臨機応変に対応している。 ・通院や送迎等必要な支援は、柔軟に対応し、個々の満足を高めるようにしている。 ・本人の状態や家族の意向に配慮して、家族の方に夕食の提供などお声を掛けている。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域活動の一環で、傾聴ボランティアの皆様が定期的に訪れ、地元のお話や話題等していただいている。 ・図書館資源を活用している。(絵本、紙芝居等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医は本人やご家族が希望する医師となっている。 ・ご家族面会時には、極力ご家族に付き添って受診して頂く。また、来所時状況を話している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医以外への受診については家族が付き添うが依頼があれば職員が支援している。家族への報告はその日の職員が確実に、職員間で連絡帳を活用して情報共有している。看護師が週3日勤務し利用者の相談に応じたり健康状態を把握しかかりつけ医と連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職員を配置しており、常にご利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。 ・階下には、神楽橋医院なので医師への対応、連携がすばやくできる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。 ・入院状況の把握に努め、都度ご家族または病院関係者とコンセンサスを取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化に伴う意思確認を行い、事業所が対応しうる最大のケアについて説明を行っている。 ・本人やご家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最後を迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	契約時、「重度化した場合における対応に関する指針」の書面を基に医療連携体制を整えて対応することや本人・家族の希望があれば看取り介護を行なう旨を説明している。終末期介護で本人に変化があれば、家族と医師等関係者で話し合いをし一番良い方法を考え支援している。この1年で2人の利用者を家族と一緒に看取った。医療行為が必要になり入院したり、他事業所に移る利用者や家族に対しては医療機関と連携しながら家族が不安にならないよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・併設されている医院の医師が、まず初期対応し、その指示に従って対応できるようにしている。 ・救急車が到着する前の応急処置や準備すべきことについて、ケースの想定をしながら勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・マニュアルを作成し、随時避難訓練を行っている。また、運営推進会議で地元区長および民生委員に協力体制をお願いしている。 ・消防署の協力を経て避難訓練、経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。	毎月避難誘導口の確認や訓練を行ない有事に備えている。消防署の立ち合いで避難訓練を実施した時には前回よりも避難完了時間が短くなっているとの講評があったという。地元自治会の協力も得られるようになっており、万が一の際は避難した利用者の見守り支援をお願いしている。また、AEDの訓練も実施しており、スプリンクラーやその他の消防機器も完備し、非常食や水の備蓄もある。	

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助が必要な時も、まず本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、自己決定をしやすい言葉を掛けるように努めている。</li> <li>・利用者様情報収集や外部との情報連携の際には、その情報の個別性や、守秘義務を徹底管理している。</li> </ul>	<p>全体会議で認知症状がある方への声のかけ方等接し方について研修をし日々のケアを行っている。一人ひとりの人格を大切に考え、ホームの理念通り、尊厳のある環境づくりに努めている。利用者が自由で家庭的な雰囲気の中で暮らしているという印象を受けた。契約時、個人情報保護に関する確認書を取り交わし徹底管理している。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様に合わせて声掛けを行い、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったりし、些細な事でも本人が決める場面をつくっている。</li> <li>・職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して利用者が自分で決める場面をつくっている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応をしている。</li> <li>・その日の体調、様子を見ながらご本人の希望や表情をみて支援している。(外出、散歩等)</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生活習慣や季節に合わせた支援やご家族の意向を聞きながら取り組んでいる。</li> <li>・本人の馴染みの美容院を聞いて対応している。</li> <li>・本人のこだわりのスタイルを尊重している。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の好みを聞いたり、職員とご利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができる雰囲気大切にしている。片付け等も一緒に行う。</li> <li>・山菜等スタッフが持ち込んだ食材の下ごしらえ等を行ってもらったりしている。</li> </ul>	<p>利用者の希望を取り入れ、季節の食材を使った食事作りに心がけ栄養士が献立をたてている。利用者は職員と一緒に野菜の下ごしらえ、味付けや盛付、果物の皮むきなどを行っている。利用者の誕生日には行事担当職員が中心となり利用者から食べたいものの希望を聞き、手作りケーキやプリン飾り付けをしたり、外食や取り寄せなど、楽しめるよう工夫している。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事量も個々に合わせて確認し、ご本人の好きな食べ物や食べやすさを考え工夫している。</li> <li>・一人ひとりの摂取量を記録している。(水分を不足している利用者様には、申し送り等で伝え、飲み易い物を提供している。</li> <li>・栄養士が適宜献立を見直して栄養バランスを工夫している。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でできる方は声掛け見守りをし、出来ない方には毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止などに努めている。</li> <li>・一人ひとりに応じた歯磨き対応をしてその手伝いしている。</li> </ul>		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊心に配慮し、利用者様の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助をしている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類もご本人に合わせてながら検討し、支援している。</li> <li>・パット類の見直しを、都度個々人に行っている。</li> </ul>	<p>布パンツの利用者が数名、オムツの方も数名で、リハビリパンツの方がほぼ三分の二ほどと自立度に合わせてパット類などを選び使用している。利用者が口頭または目で合図するなど、職員に何らかの手段で伝えられる場合はトイレ移動の支援をしている。伝えることが難しい利用者には職員が時間をみて誘導している。職員は排泄記録表を基に利用者の排泄パターンを把握し一人ひとりに沿ったさりげない支援をしている。</p>		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄パターンを記録し、十分な水分補給と便秘対策に取り組み、申し送り等に排便状況を確認している。</li> <li>・なるべく身体を動かすことの大切さを職員全員に意識づけさせている。</li> <li>・毎日軽い体操を行っている。</li> <li>・水分補給およびその管理・記録を行っている。</li> </ul>			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴したい日、時間に合わせて入浴をいただいている。また、入浴を嫌がるご利用者には、時間をおいて極力安心感を持って入浴できるよう介助している。</li> </ul>	<p>週2回以上入浴しており、利用者の希望に合わせて毎日入浴する利用者もいる。自立度の高い方は若干名で、その他の方はスタッフが側について介助している。重度の利用者については職員二人で介助し安全な入浴に努めている。今のところ入浴を拒む利用者はいない。異性介助を拒む方には同性職員が対応している。季節に合わせて菖蒲やリンゴを浮かせて楽しめるよう工夫している。</p>		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムを整えゆっくり休息がとれるようにしている。</li> <li>・寝付けなときは、温かい飲み物を飲んで話をする機会を設けるようにしている。</li> <li>・眠剤を飲まれている方には睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないかを確認している。</li> </ul>			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師がご利用者毎に、処方箋に基づいた朝・昼・夜等の管理袋に整理し、服薬時には、ご本人に手交し服薬を確認している。</li> <li>・ご利用者毎の薬の処方に職員全員が、共有し、間違えの防止に努めている。服薬時には、職員同士で声を出して名前の確認する。</li> </ul>			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・得意分野と一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。</li> <li>・紙花作りやプランタでのお花づくりに積極的に協力し楽しみ事を支援している。</li> <li>・ドライブや地域の行事に希望に沿って実施している。</li> </ul>			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近くの公園に散歩や3階のテラスに腰掛けお茶を飲みながら外の空気に触れるようにしている。</li> <li>・月に1度は、季節ごとのレクレーションをして楽しんでいる。(外食会、サクラ見学、紅葉見学等)</li> <li>・車イスのご利用者にも積極的に参加してもらうよう支援している。</li> </ul>	<p>車椅子の利用者も一緒に日常的に近くの公園に出かけ外気にあたりながら近所の人々と交流している。月に1回以上は行事外出をし、2~3人のグループで外食や花見、善光寺、飯綱高原などへ出かけている。ドライブのついでに自宅に立ち寄ってくることもある。利用者の希望に副いながら買い物など個別の外出支援も行っている。</p>		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご家族と相談して美容院での支払等お金がある安心感や満足感に配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話はいつでも希望があれば、掛けることができる。はがきも用意してあるので、希望があれば出せるように配慮している。 ・ご家族、友人等からの手紙や電話は、必ずご本人に伝え意思の疎通ができるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節ごとの飾り物を積極的に取り入れご利用者と一緒に飾りつけを行って楽しんでいる。(雛祭り・鯉のぼり・ご利用者の絵、塗り絵、作品等) ・調度品は、お年寄りに利用しやすい物、馴染みのあるものを取り入れている。	広い食堂兼居間には家庭的なテーブルとイスが置かれ、テレビをみながらくつろげる。フロアの一角にはソファも置かれ、利用者は思い思いに自分の時間を過ごせるようになっている。フロアから居室へ続く廊下を利用して毎日「365歩のマーチ」に合わせて歩行することが日課になっている。壁には利用者が製作した「田植えが終わった初夏の風景」の大きなはり絵が飾られ柔らかな雰囲気となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・花や絵を飾り居間ホールの応接でゆったりとテレビや音楽を聴けるようにしている。 ・広いスペース空間があるので、椅子の配置やソファ、仲の良い入居者同士がくつろげるな生活ができるよう取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご家族の協力を得て馴染みの家具等を置いたり、また衣類等はご家族にお願いし、季節毎に入れ替えていただいている。 ・思い出の写真集や鉢植えなどを置き居心地よい居室環境に配慮し工夫している。	居室にはベットと大きなクローゼット、エアコンが備え付けられている。利用者が馴染みのあるテレビや座イス、テーブルなどを持ち込み自宅の延長のような雰囲気の居室となっていた。好きな本や写真、絵などが飾られそれぞれの利用者の心地よい空間づくりがされていた。フロアからは居室の入口は見えない造りになっているのでプライバシーが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者様の身体的状況を考えながら、極力不安・混乱材料を取り除き、自立できる生活が送れるように必要な目印、物の配置に配慮している。		